

平成29年度 千葉県農業多面的機能発揮検討会	
日 時	平成30年1月16日(火) 13:30 ~ 16:00
場 所	千葉県森林会館 5階 第1会議室
出席者	<p>【構成員】（敬称略 五十音順） 石井構成員、重岡構成員、千賀構成員、安原構成員、和田構成員</p> <p>【オブザーバー】 千葉県多面的機能推進協議会</p> <p>【職員】 安全農業推進課長他</p> <p>【傍聴者】 なし</p>
<p><b>質疑・意見等</b></p> <p>【多面的機能支払交付金】 農地中間管理機構による担い手への農地集積の推進と、多面的機能支払交付金による集落ぐるみの保全活動の推進は、セットで行うことが国の基本方針。今後千葉県で多面的取組を進める際、特に連携を強化していくことが重要である。</p> <p>【中山間地域等直接支払交付金】 中間年評価書の集落戦略への取組状況で「集落戦略が必要」と回答しながら未作成が多いという結果は、集落で現状を改善したいという意欲がありながら、具体的な行動が分からないという事である。そういった集落を救いあげるような政策を行って欲しい。</p> <p>【環境保全型農業直接支払交付金】 カバークロップ、リビングマルチ、草生栽培などは同じ緑肥の取組でカテゴリー分けして交付単価が設定されているとのことだが、農家にとっては、同じ緑肥の取組となるので、交付単価が変わることについて、有機農業の研修会等で農家に知らせて欲しい。</p> <p>実施件数が横ばいか減少している一方で、実施面積は拡大している状況は、1件あたりの実施面積が拡大していることを示していると考えられる。そこで、例えば有機農業の取組では、拡大させるにあたり、いかに農地集積するかが課題となると思う。</p> <p>【中山間ふるさと・水と土保全対策事業】 Q: テキサスゲートグレーチングはシカやイノシシの蹄が挟まって抜けなくなるのか。 A: 挟まって捕らえるワナのようなものというよりは、恐がって近づかなくなるもの Q: 道路の部分から侵入するとは限らないのではないか。 A: 集落を柵で囲ったうえで、出入口となる道路に敷設する。 Q: ヤギレンタルは何頭貸すのか。 A: 基本的に群れで生活する動物なので、2頭以上で貸すことになる。</p>	

### 【その他・総評】

- ・千葉県の特徴は大都市近郊ということなので、そういったことを踏まえた、県独自の農業政策を図っても良いのではないかと考える。
  - ・農家は孤立感をもつ一方で、若い人たちを中心に、次の取組の芽が出ている。そこに交付金を使うことで、意義があるものと思う。いずれの事業も、地域をマネジメントしていく意識が必要ではないか。
  - ・有機農業の実施件数や集落戦略の作成状況をみると、支援が必要な状況。ただ、どこまで支援するか、今後、考えていく必要があると思う。目指すのは、農業生産額全国4位の順位を上げていくことなど。また、自給率の低下や外来種の問題もある。
- 制度を運用する側の目的意識が高ければ、交付金を使う人も意識が高まるのではと思う。今後は、こういうところに注視して、やっていただきたいと思う。